

随泉寺寺報

2002 年 9 月号 第385号 082-892-0217

浄土真宗本願寺派 高峯山随泉寺

秋季彼岸会法座

講師 安芸郡海田町 真宗寺住職

小川 照信師

講題 「私の目と仏様の目」

昨年の9月11日、アメリカの経済・軍事の中枢を狙っておこされた同時多発テロ事件から1年が過ぎようとしています。テロ支援国とみなされたアフガニスタンに対する空爆がはじまり、報復戦争はテレビによって私達の茶の間でも見られることとなりました。アフガニスタンやパキスタンはイスラム教が入るまでは仏教が栄えた所です。天親菩薩はパキスタンのペシャマルで生まれられたといわれていますし、アフガニスタンの壁画や大仏像はあのタリバンが破壊するまでは世界的にも貴重な遺産でした。しかしタリバンにとっては異教徒の偶像であり、イスラムを汚すものです。アメリカはテロを起こした人たちにとってはにつくき敵であり、イスラムの聖地を汚す大逆人です。あの飛行機でワールドトレーディングセンターに体当たりした人々は聖戦(ジハード)を遂行した英雄です。私達凡夫は見る目、立場によって全ての事象は受け取り方が違います。大切な信仰の対象であったり、貴重な歴史遺産と考える人もあれば大事な聖地を汚す偶像崇拜のシンボルとみます。また世界の貿易の中心でもあり、悪魔の象徴と見ます。いつも私が中心となるのでしょうか。

9月の行事予定

- 9月14日昼席午後1時より……… 秋季彼岸会法座
- 9月14日夜席午後7時半より……… 出張法座 長者原西集会所
- 9月15日朝席午前10時より……… 若い婦人の集い
- 9月15日昼席午後1時より……… 秋季彼岸会法座

今年の夏もようやく終わろうとしています。今年は異常気象とやらで、連日36度を越える猛暑が続きました。人間の体温よりも高いのですから、お風呂に入っているようで、どこにいても逃げるところがないという感じでした。暑さ寒さも彼岸までといいますが、彼岸がきてほんとに涼しくなるのか心配です。今年の暑さは異常のような気がします。しかしよく考えてみれば異常でもなんでもなし。部屋のなかに入ればクーラーで涼しくしてあるし、車の中も、ビルの中も涼しい、しかしその冷やしている機械の傍を通ると熱風が吹き出しています。まさしく熱くなるのは当たり前です。部屋の中や車の中、ビルの中を涼しくする為に、外は熱風を放出しているのです。**因果応報** 暑くなる原因を作っているのですから、暑いのは当たり前です。

少年少女の研修会

8月6日～7日少年少女の1日研修会と1泊研修会を行ないました。ことしは1泊研修が34名、1日研修は50名と沢山の子供達が参加してくれました。今年は龍谷大学の学生2名の先生がきてくれ、楽しい楽しい2日間でした。



若い婦人のご案内

9月15日彼岸会法座二日目を若い婦人の集いと致します。【仏法は若い時に聞けと蓮如上人はおおせられた。年をとると、歩行は難しくなるし、ねむたくもなる。だからぜひ若い時に心がけて聞かねばならない。】《蓮如上人御一代聞書》より。お忙しいと思いますが誘い合わせでお参り下さい。

随泉寺灯茶会 9月21日(土)午後七時～

今年も去年に続いて随泉寺灯茶会を開催します。今年は彼岸に開催します。去年は夏至に開催したのですが、外での行事は雨が降ると出来ないのので梅雨の季節は避けました。と同時に夏至の時は遅くならないと暗く成らないので、時間が遅くなりましたが、今年は7時から始めます。秋の夜長、庭の灯火でも眺め、ゆっくりとした時間を過ごして見ませんか。



百ヶ日を迎えて

西川 邦子

母はガンの末期で、一年余の自宅でのホスピスケア その後2ヶ月の入院生活、そして2ヶ月余の自宅での看取りに至り3月24日午後8時過ぎ永眠しました。

平成14年3月24日 午前4時過ぎ

母(百合子)の気配で目が覚めた。

看護婦さんに連絡をとり、看護婦さんが来られるまでの20分か30分か定かではないけれどイママデに感じたことのないドキドキ、貴女の命をアズカル不安 その時間が長かったのか、それとも短かったのかそれも不明 <もうすぐ看護婦さん来るよ、待っててよ>何のなすすべもないまま 貴女の背を抱くのみ.....車の音 <おかあちゃん

看護婦さん来た> 私はホッとしました。貴女もホッとしたのかな?

<お母さん苦しかったね、よく頑張ったね> その時点からお世話になった看護婦さんに 交替で就いて貰いましたね。或方が就いて下さった時 貴女は本を読んで貰いました。長い76年の人生で寝床で本を読んで貰うなんて恐らく 初めての体験だったでしょう。人生の最期を畳の上で、自分の部屋で、子供達に見守られ乍、静かにゆっくりと息を引き取って逝きました。静かにそっとみんなにお別れを少しずつしながら、人生の重たい重たい幕を自分の力で閉じてゆきました。<ありがとう、すまんあ、私はこんなにシアワセでいいのかな.....>感謝の言葉ばかり投げかけてくれて、こちらこそ【あ・り・が・と・う】

貴女の家族を看取ってくれてありがとう。お母さんがワタシタチヲ看取ってくれたのですね。私達を見届け貴女は自分の想いを全て満たして安心して阿淋陀さまの御許に旅立ったのですね。

そして 今では私を!守ってくれています お母さん有り難う。



いざという時

平生は何ともないがいざという時がある。その時なにか力に成ってくれるもの、頼りとするものを持っているかどうかで、生き方は違ってくる。しかしそのたよりとするものが本当に頼りと成るか?

私は子供に全くあてにされていないというか、見くびられているというか、どうしようもないお父さんで見られている。それもそのはず、この頃の機械はやたらリモコンで動くというのが多く、ビデオの予約にしても、どのボタンを押せば良いのか判らない、おまけに使用説明書きたら、細かい字で説明してある。老眼なのでいちいち目がねをかけて、説明書を片手にというのは、めんどくさくて、ついつい娘に頼ってしまう。パソコンの新しい設定などでも なかなか面倒である。ついつい娘に「おい、これをやってくれ、あれを頼む」という始末である。またゴキブリやらムカデも苦手である。これらが出てきた時は、私の方が先に逃げ出してしまうのである。その都度、娘に『お父さんは何も出来ないのだからと』バカにされている。

今年は雷がよく鳴った。夜中に大きな音でごろごろと鳴るばかりでなく、ピカーと稲光がしてスゴイ音になって、今にも近くに落雷したとおもわれるようなことがあった。すると一番下の娘が「お父さん...」と言って私達



の部屋にやってきた。恐かったのであろう。普段は全く父親としての威厳はないのであるが、この時ばかりはたよりになったのであろう。人生には本当にどうしようもなく悲しい事、苦しい事に出会います。その時たよりに成るものを持っているか。